



学校だより

令和4年5月31日
横浜市立仏向小学校

6月号

カルガモ親子が教えてくれたこと

校長 大嶋 智子

5月14日土曜参観の日のことです。学校を退勤しようとしていたら、カルガモ親子が学校敷地内にいるという情報を聞きました。探してみると給食室道路側の壁際に、なんと、親ガモと、その胸の下には8羽の子ガモが入っている状態で座っていました。



いつからここにいるのだろう、どこで生まれて学校まで来たのだろう・・・
水もエサもないコンクリートの上・・・明日は気温も上がるだろう・・・
校門を出た先はバス通り・・・坂道でスピードを出す車両が行き交っている・・・
翌2日間もの休み中、学校敷地内をさまよったとしても、池や水田、出口もなく・・・
このままだと子ガモは死んでしまうかも・・・居ても立っても居られなくなりました。
どうしよう、誰に聞けばどうすればよいのかを教えてもらえるのだろう・・・その場で
思い当たる人に電話連絡しているうちに、カルガモ親子は立ち上がり、移動を始めたのです。

ヨチヨチ、ピョコピョコと、子は親の後を必死についていきます。親は、左右に首をひねって、子ガモがついてきているか目配りし、子を想いながら進んでいます。

ハートフルルーム門まで行くと行き止まってしまい、親ガモは横の階段を上り始めたのです。十数センチの段差も、子ガモにとっては見上げるほどの絶壁。子ガモにも“個人差”があり、さっさと階段を上れる子、遅くとも頑張っている子と、それぞれです。途中で力尽きてしまった子がいました。傍で見守っていた職員は、「手を貸してあげた〜い」と、ぎりぎりまで見守っていたのですが、

カバンからペットボトルを取り出し、ジャンプ直後の着地受けにそれをあてがってくれました。この踏み台を入れた“特別支援”により、8羽ともなんとか階段を登りきることができたのです。子ガモの頑張りとの確な特別支援をしてくれた職員に嬉しくなりました。

その後、バスケットコートの水溜まりで元気に泳ぎまわる姿を見て、ひと安心。さぞ、喉も渴いていたことでしょう。そうこうしているうちに、身近な専門家が到着し、校庭奥のフェンス出口へ上手に誘導してくれ、カルガモ親子を裏の畑に見送ることができました。

もし、これが昼間の出来事で、子どもたちが実際に見ていたら、どれほどの笑顔や歓声、感動の拍手が飛び交っていたことでしょう!見せてあげたかったです。

その日、カルガモの生態、エサ、受精や産卵、生育環境、仏向の地図などを夢中で検索する自分がいました。まるで、総合的な学習の探求課題に取り組んでいるようでした。親が子に願う成長・安全への想い、生命の大切さ、特別支援教育、交通安全、自然環境などにも思いが広がりました。各教科等にも関連させられたら、子どもたちはどんなにワクワクするだろうと。仏向の子たちには、豊かな感性の持ち主になってもらいたい、その学びを保護者や地域の皆様のお力を頂きながら深めていきたいと思いました。

土曜参観のちょうどその日に、カルガモの親子も登校してくれるなんて、仏向小学校は幸せな学校です。いつかまた元気に育ったカルガモ達が仏向小学校に遊びに来てくれることを、子どもたちと一緒に待っていたと思います。



YouTube
カルガモ動画(2)



YouTube
カルガモ動画(1)